



鳥東高通信

第163号

平成27年12月

編集・発行

鳥取東高等学校PTA
鳥取県立鳥取東高等学校

印刷

日ノ丸印刷株式会社

人権教育推進部の活動を通して

PTA副会長 田淵 聡

今年度執行部役員として「人権教育推進部」を担当させていただくことになりました。

部員の経験がないまま、高校の執行部役員をすることは大変不安がありました。部長さんをはじめ部員みなさんが積極的な方々であり、雰囲気の良い部会活動を行っています。活動の一つとして、京都へ「フィールドワーク」に参加してきました。これは、本校部落解放研究部員と共に学習する活動です。

フィールドワークは京都市下京区にある「柳原銀行記念資料館」に行きました。この銀行は、自分たちで「なんとかならないといけない」という思いから当時の有識者、有力者たちがお金を出し合い設立された銀行です。未来ある子どもたちには学習の機会を与えるため学校を建設、地域を整備、働く場所の建設など活気ある街づくりのため学校に立った銀行でした。館内を案内してくださった職員さんが力を込めて言われていたことは、「子ども達にはまず勉強して欲しい、そして人の役に立つ立派な人間に育って欲しい」とのことでした。この町に作られた学校で学んだたくさん子ども達も立派な大人に育ち、そしてこの地域のために働いているそうです。

我々保護者も、わが子を立派な大人に育てましょう。

進取の気を持ち続けよう

校長 藤原 辰広

ノーベル医学生理学賞を受賞した大村智さんが「成功した人は誰よりも失敗している」という発言をしている。失敗体験の有用性が改めて示されたと感じる。本校生徒のみならず、多くの人が失敗を恐れる。私も失敗を恐れて無難な学校経営をしていたのではないかと反省もしている。本校生徒信条の一つである「日々自らを鍛え進取の気をもって事に当たろう」は、様々なことに積極果敢に挑戦しなさいというメッセージである。失敗を恐れず、むしろその失敗こそが成功につながるのだ、という強い信念を持ち続けてほしい。

本校生徒の特性を「素直」という言葉で表す人が多い。だが、言われたことを素直にやるだけの生徒になってはいないか。教員への依存度が高過ぎはしないか。初代校長の林重浩先生は、「依頼心を捨てて、独自に学習せねばならない」と説いておられる。建学以来九十余年、各自が自力で未来の扉を開く一人一人でありたい。本校は、もっと学びたいという子どもたちの願いを叶えるために、徳田平市という篤志家の寄付でできた学校である。

本校生徒は貪欲に学び、社会に貢献する義務を負っていることを忘れてはならない。



二一 井勢菜香

私が大阪で過ごした三日間は、想像以上に充実したもので、私の人生にとってとても意義のある経験となりました。特に印象に残っていることは四つあります。

まず、大阪大学訪問では、学生のリアルな大学についての話や、大学の先生の話を聞きました。大学の自由な雰囲気を感じたと共に、全国から同じ目的を持った仲間が集まり、よりレベルの高い学びを追求していく姿にあこがれを感じました。将来の進学に向けての意欲がさらに高まることのできた貴重な機会となりました。

次に、大阪での自由行動では慣れない場所での行動で不安もありましたが、なんとか自分たちだけで研修先や電車の時間なども調べて、充実した自由行動になりました。不安が自信へと変わる経験でした。しかし、ホテルへの到着時刻を過ぎてしまったことが心残りです。時間を守ることが大切さを改めて身にしみて考える機会となりました。

いうことに感謝したいです。
今回の研修旅行で学んだことや経験したことは、将来何かに繋いだとき、きっとどこかで助けになってくれると思います。自信を持って今は将来の夢に向かって全力でがんばりたいです。

二二 井伊 瑞貴

私は今回の研修旅行で普段の生活では学ぶことのできないいくつかの大切なことを学びました。その中で一番大切だと思ったことは、自分の周りにいるたくさんの方のおかげで自分たちの生活ができていているということです。

研修旅行一日目に、朝日新聞大阪工場と大阪企業家ミュージアムに行きました。朝日新聞では、DVDを観た後、実際に新聞のできる工程を見学しました。この体験を通して、一つの新聞にたくさんの方の力があつたことがわかりました。その日あつたことの情報を取材し、原稿にまとめ、記事についての会議を繰り返した後、いくつかの工程を経て一つの新聞になります。私たちの家に当たり前のように届いてくる新聞はたくさんの方の力があることを改めて学びました。そして、毎日、テレビや新聞、インターネットなど社会で起きていることの情報を集めることができて、誰かが情報を集めて、発信してくれているからだということも学びました。

次に行った大阪企業家ミュージアムでは、私たちが毎日使っているものを発明した人、世の中や経済を立

て直した人など、総勢一〇五人の人の発明がありました。この人たちの活躍があれば、今の私たちの生活はここまで便利で快適なものではなかったと思います。いま私たちが毎日勉強に使っているシャープペンシルや、身の回りの家電製品などたくさんの方の発明家がいることを改めて知ることができました。この体験を通して、昔のたくさんの方の企業家の人たちと、今私たちが快適に生活できていることに感謝したいと思いました。

他にも、神戸大学で模擬講義を受けてみて、自分の進路選択は実際に見たり、体験したりすることが大切だということも学びました。そして、自分の進路をしっかりと考え直そうと思いました。

今回の研修旅行で、実際に見たり、人の話を聞いたりすることで、普段の生活ではわからないことに気づくことができました。自分の周りにいるたくさんの方のおかげで生活ができて、いることに感謝して、部活動や勉強など今やらなければいけないことと、今自分が見たいことを全力でやろうと思いました。





研修旅行を通して

二一七 宮本 玲羽

小学校、中学校と修学旅行に行っていたが、高校の研修旅行は最後の旅行といえるだろう。私はこの研修旅行、楽しむことを一番の目的に、しかし学ぼうという姿勢も併せ持つて臨んだ。

今年の研修旅行は例年とは違い、学年全体で関西方面へ行くというものだった。出発のバスはやはりみんな、期待に胸を膨らませているようでとても騒がしかった。かくいう私もうるさかったように思える。初日は、私たち7組は神戸中華街、カワサキマリノワールドを回り、夕食後にライオンキングを見た。この研修で一番印象に残ったのはライオンキングだった。正直なめていたが、始まった瞬間に大迫力の演技と音楽で作品の中に引きこまれた。小学生くらいの子どもが大きな役を任されている、いつも自分が家でドラダラしている時間にこんなに堂々と役になりきる子どもがいると知り、感動とともに自分のやる気にもつながった。

二日目は最初に京都大学で村瀬教授の模擬講義を受けた。数学の問題を見方を変えて解いてみる、というところから入り、病気を治そうとする体内のシステムそのものが病気の原因となる、というところまで聞いた。とても難しく、理解できたかどうかわからないが、何事も見方を変えてみたりすることが大切だとわかった。また、興味を引くような話し方で、もつと学びたい!と思わ

れた。その後、班別研修で大阪の街を探索した。事前に行く場所、交通手段、ルートを決め、それに沿って行動するというものだった。大阪の街は鳥取とは比べものにならないほど広く、また栄えていて、その街を自分たちだけで行動するのはとても興奮した。都会に出た時の勉強になったし、都会にふれることで大きな感銘を受けた。また、大阪で食べた串カツ、たこ焼きは流石、本場の味という感じでとても美味しかった。

そして、最終日、USJに行った。普通に楽しんだのだが、京大の講義で学んだように見方を変えてみて、そこで働いている人たちに目を向けて見ると、キャストの方たちは常に笑顔を保ち、流石プロだと感じた。

こんな感じで僕の研修旅行は幕を閉じた。研修旅行の醍醐味であるホテルの部屋で友達とはしゃぐこともできたし、すべての研修が充実している第一の目標である楽しむということが達成できたと思う。また、学ばされることも多く、良い刺激になったと感じた。この経験を進学、将来設計に役立てたい。



山脈十二回生 山崎 勝彦

東高祭を終えて

前期生徒会長 岩見しおり

例年以上の盛り上がりを見せた第六十六回東高祭。「最後の学祭」を背負った三年生の溢れんばかりの熱気に続き、一・二年生も最高の盛り上がりを見せてくれました。学祭の最後を飾る夕べの集いで演台から東高生の楽しそうな表情を見たとき、改めて東高が好きだと心の底から感じました。

そんな気持ちにさせてくれる素敵な東高で、私は生徒会長をさせていただき、その経験を通して、人として大切なことを学びました。

学祭前の私は何でも自分でガツガツ事を進めていくタイプで、一人で頑張ることが自分の中の美德でした。しかし、東高祭を作り上げるのは全東高生ですし、特に関わるのは執行部員です。当時の私の考えは、みんなで作り上げていくことが前提の東高祭にはそぐわず、執行部のみんなから幾度となく説教を受け、やっと、人と協力することの大切さに気づきました。迷惑をかけてしまった申し訳なさと共に、私の常識を打ち破ってくれた仲間への感謝の気持ちでいっぱいです。

隠さず欠点を指摘してくれる仲間がいたからこそ、生徒会長の職を全うすることができました。

みなさんにとって東高祭はどのようなものでしたか。一人の人間として少しでも成長している部分があれば幸いです。

東高祭で……

一・三谷 奈央

東高祭にはたくさんの思い出があります。その中でも、クラス演技が一番の思い出です。最初は、何をするか曖昧で責任者というプレッシャーから逃げ出したかったんです。練習も上手く進めることができませんでした。このままだと本番でしらくてしまわないかと不安でした。ですが、クラスのみんなが意見をしてくれたり、柿本先生からのアドバイスもあったり、なんとか本番までに仕上げることができました。

いよいよ本番というときに、ステージにあがらない私が一番緊張していたと思います。ステージのそでで見ているのですが、予想以上に盛り上がりつつあり、とてもうれしかったのを覚えています。それでも、正直他のクラスのボイコントの方が完成度が高かったように思ったので

優勝はないと感じていました。と、いっても、最初から優勝しようとしていた訳ではなかったで結果発表のときは緊張していませんでした。ところが、結果は一位でした！まさか一位をとれると思っていなかったのが驚きを感じませんでした。このような結果を出せたのも一組のみんなのおかげです。本当に感謝しています。

今年の東高祭

二・五 中林真菜水

私は、入学前からとても気になっていたイベントがありました。それは東高の一大イベント、東高祭です。一年前、初めて体験したそのイベントは名前の通り、お祭りのようでした。

あれから一年後、二年生になった私は先輩という立場になり、まだ東高祭の楽しさを知らない一年生たちに東高祭の楽しさを伝えていく立場となりました。今まで私たちは先輩たちに楽しませてもらい、自分たちが先輩になった後輩たちにその楽しさを伝えていく、私は東高祭は楽しむ人、楽しませる人、そういう人たちによって成り立っているのだと感じました。

楽しいのは当日だけでなく、みんなで準備をする、ということも東高祭の醍醐味だと感じました。私のクラスは理系なので女子が少なく、準備を女子全員集まってしまうことにより、普段あまりかわるることのないような人たちともこの機会によって仲良くなれることがとてもうれしく感じました。

今年の東高祭も先輩、後輩、同級生、先生たちのいろんな人によって最高のものとなりました。私たちが最高学年となる来年、どんな東高祭を作り上げることができるのか、楽しみです。



第66回東高祭

生徒会主任 北尾 慎一

今年も東高生たちの汗と熱い思いのぎっしり詰まった学校祭が九月一日〜三日まで実施されました。例年中、生徒たちは大変頑張りました。ハチマキやゼッケンをはじめとするクラス発表、各部による演技・発表、クラブ展示などはこの準備があつてのことだと思っています。

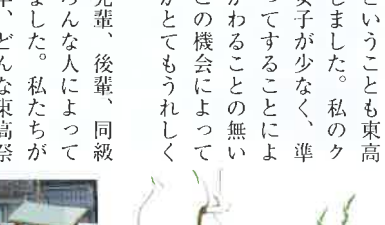
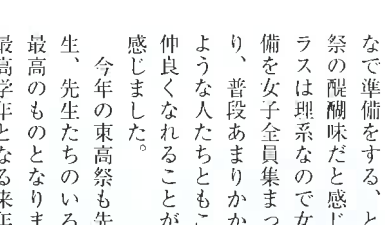
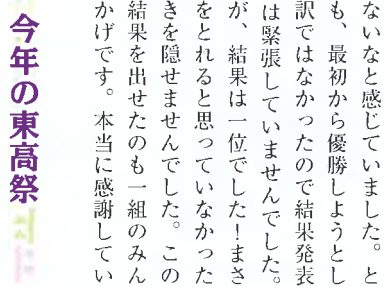
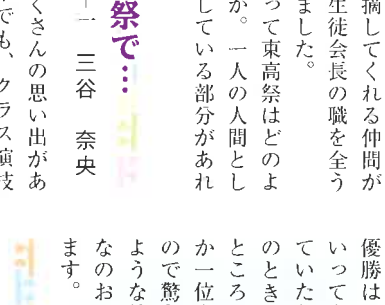
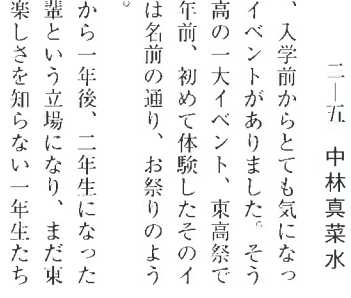
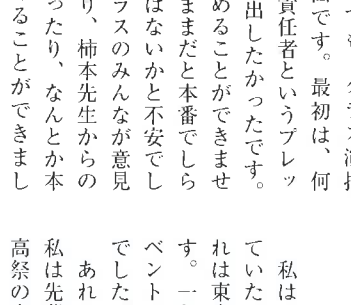
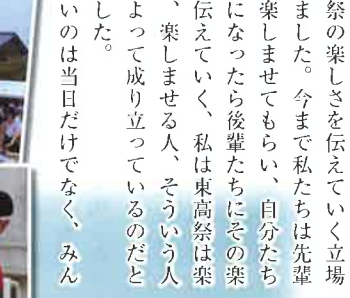
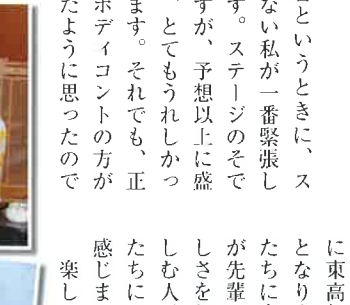
初日は、とりぎん文化会館でした。まず一番にサックス奏者マルタによる外部公演でした。マルタさんが自身の高校時代の思い出を披露後に演奏されるなどして、生徒一同親しみを覚えました。これにより、出演者と一緒になって観客全員が、見事なサックス演奏に聴き入りしました。つづいて、書道パフォーマンスです。音楽に合わせた筆使い、堂々たる演技で観衆を魅了しました。次の理数科による課題研究発表ではアカデミックな発表に感心させられました。午後は吹奏楽部演奏、演劇部公演と盛り上がり、最後に合唱コンクール本選では、予選を勝ち上がった素晴らしい合唱に惜しめない拍手が送られました。

二日目は全クラスによるクラス演

技から始まりました。どれも素晴らしい内容で、会場は大きな歓声で大盛況となりました。事前に多くの時間を練習に費やしたと思われまふ。午後からは模擬店・クリエイション・アトラクション・ミュージックファクトリーで、生徒の個性が感じられ素晴らしい思い出でした。

三日目は、体育祭が第一グラウンドで開催されました。途中までは大変天気よく、生徒たちの熱い情熱が体育祭の全日程を実施させたと思えます。体育祭後、夕べの集いが開かれ生徒たちは生き生きとした表情を見せ、素晴らしい思い出です。さらに夕べの集い中に雨が降り始めましたが、生徒たちの熱気のおかげで小雨ですみ、全て予定通り進行できました。

生徒職員一同、全日程をこなし来年度の東高祭を楽しむにして幕を閉じました。



PTA健康・生活部主催 研修会 子どもの自立のために、今、親ができること



二〇一五年十月八日(木)に健康生活部主催の保護者研修会が行われました。今年度は「子どもの自立と成長のために」と題して、本校PTA副会長の木村聖治さんに六人の子育てを通して感じられたこと、また、鳥取県では高卒者の離職率が全国

平均を上回り、40%を超える数字になっていることを踏まえ、一企業人として社会人になるまでに身につけてほしいことなどについてお話ししていただきました。不自由な思いをさせることも我慢を知ることにつながる、叱るときは子どもの将来を思い、目を見て叱ろう、甘やかしすぎはだめ、など例を挙げてわかりやすく説明してくださいました。その後のグループワークでは講演を受けて、子どもの自立のために「今、家庭で実践していること、意識していること」について意見を交わしました。普段

平均を上回り、40%を超える数字になっていることを踏まえ、一企業人として社会人になるまでに身につけてほしいことなどについてお話ししていただきました。不自由な思いをさせることも我慢を知ることにつながる、叱るときは子どもの将来を思い、目を見て叱ろう、甘やかしすぎはだめ、など例を挙げてわかりやすく説明してくださいました。その後のグループワークでは講演を受けて、子どもの自立のために「今、家庭で実践していること、意識していること」について意見を交わしました。普段



何気なくしていた挨拶やお手伝いが実は子どもの自立のためになっていったのだと再確認したり、登下校は自力でさせるなど他の意見を聞き、我が家でも早速実践してみようと思えることがあったりと、終始和やかな雰囲気の中、約40名の参加者は有意義な時間を過ごすことができました。



この度、1年間の留学を終えてドイツへ帰国された「フィオナ」さんへインタビューをしました。

(質問はQ、回答はFで表記)

Q「名前を教えてください。」
F「アイリーン・フィオナ・ヘルトです。16歳です。ハンブルクから来ました。」

Q「鳥取東高の印象はどうでしたか？」
F「生徒は一生懸命勉強している人が多いと思う。やさしい人が多い。生徒は英語が苦手としている人(英会話が多いが、自分の言葉で私に話しかけている人が多くうれしかったです。)」

Q「ドイツとの違い(生徒)はなんですか？」
F「ドイツの学生はあまり勉強しない。けれどドイツ人は(自分に)自信を持っている人が多い。恥ずかしがらない。」

Q「なぜ留学先を日本にしたのですか？」
F「とにかくアジアに行きたかった。中

国はあまり好きではない。日本の文化は面白いと思います。言語も面白いです。日本人はよく挨拶をするし、目上の人を尊敬しています。」

Q「留学生生活で楽しかったことはなんですか？」
F「書道がファーマンズです。書道ばかりではなく、日本人のライフを自分で研究することは楽しかった。(日本に着いた時は全然(言葉が)わからなかったけど一生懸命勉強しました。)」

Q「日本の食べ物で好きなものは何ですか？」
F「ラーメン、うどん、みそ汁。ごはんがとてもおいしいです。あと日本のおか

し。日本のウインターソーセージは(ドイツのより)小さいがおいしいです。」

Q「ドイツに帰ってその後は？」
F「高校を二年で卒業したら大学に入って、将来はグラフィックデザイナーになりたいです。ゲームが大好きで、夢はゲームを作ることです。」

Q「最後に東高の皆さんにメッセージをお願いします。」
F「(一生に)一度は別の国に行ってください。ヨーロッパ、アフリカなど違う国に行くことよと思う。もしずっと自分の国にいたら経験できないことが経験ができます。テレビで見るとの違いの国の文化などを肌で感じることができます。あと、勉強も頑張ってください。」

Q「ありがとうございました。ドイツへ帰られても頑張ってください。」

第65回 全国高等学校PTA連合会大会 岩手大会に参加して

PTA研修部長 稲村 潤一

甲子園の決勝が行われた八月二〇日、全国高P連岩手大会が盛岡市を中心に開催されました。甲子園、真紅の大優勝旗は今回も白河の関を越えなかったけれど、盆明けから大分涼しくなったよという運転手さんの言葉どおり岩手大会は爽やかな風の中、地元高校生のパワーと各県PTAの熱意に溢れた大会となりました。

初日、基調講演は日本の超電導研究の第一人者である芝浦工科大学長村上雅人先生が「夢高くして足地にあり The sky is the limit」をテーマに、自らの高校時代のアメリカ留学経験も交えながら、自分の夢に向けて、自らもそうだったように若い人たちにもっと積極的な海外に出て、世界(の多様性)を見て欲しいとの想いを述べられました。講演テーマもご自身が恩師から教えられ、自ら座右の銘として常に心に留めている言葉とのこと。『貴方たちの可能性は宇宙に続く空のように無限であり、夢や希望、志は高く持ちながら、それでも足はしっかりと地に着けて(根を張って)夢に進もう』という村上先生の若い後輩たちへの熱いメッセージに、高校生にこれに耳を傾けたかったなあと思いがけず耳を傾けました。

二日目の全国高P連研究発表では、京都大学大学院の木原雅子准教授による平成26年度全国高校生生活意識調査結果からの報告があり、高校生のマスク症候群やスマホの使用

木原先生の進めるWYSH教育では、子どもたちの自尊心をあげて、精神的自立を促し、「自分力」をアツプさせていくことに主眼をおいているとのことでした。今の社会環境の中では、自尊心をあげるというのは子どもだけでなく、大人でも難しいと思いつつも、もう少しスマホ使用についてくらいは、厳しく臨もうと心に新たにしました。大会のテーマ「未来圏からの風をつかめ!」は宮沢賢治の「生徒諸君に寄せる」に因んだテーマです。今回の岩手大会でも、多くの高校生が四年半前の東日本大震災を乗り越え、素晴らしいパフォーマンスを発揮して、全国のPTAを迎えてくれました。鳥取東高生徒諸君も負けずに、颯爽たる諸君の未来圏に向けて、自ら風を興して、更にあらたな正しい時代を創れ! (って欲しい。)

6月以降の各種大会等結果

《陸上競技》

○第69回鳥取県陸上競技選手権大会兼第70回国体選手選考会

- ・男子4×400mリレー 8位 中国大会出場
- ・男子少年B3000m(川上) 1位 中国大会出場
- ・男子やり投(細川) 4位
- ・女子4×400mリレー 8位
- ・女子1500m、800m(北脇) 1位
- ・女子円盤投、やり投(安道) いずれも3位
- ・女子やり投、円盤投(三浦) 4位、5位
- ・女子5000m(松本) 7位
- ・女子砲丸投(北山) 4位
- ・女子砲丸投(猪口) 5位

○第68回中国高等学校陸上競技選手権大会兼全国大会中国地区予選会

- ・女子800m(北脇) 4位 インターハイ出場
- ・女子1500m(北脇) 優勝 インターハイ出場

○全国高校総体陸上競技

- ・女子800m・1500m出場(北脇)

○第69回中国五県陸上競技対抗選手権大会

- ・女子5000m(松本) 8位

○平成27年度鳥取県高校新人陸上競技対校選手権大会

- ・男子100m(伊藤) 5位
- ・男子500m(川上) 8位
- ・女子走高跳(栗本) 5位
- ・女子砲丸投(猪口) 4位
- ・女子砲丸投(北山) 5位
- ・女子砲丸投(古井) 7位
- ・女子円盤投(猪口) 4位
- ・女子円盤投(橋本) 8位
- ・女子やり投(猪口) 5位

猪口、北山は中国大会に出場

○第50回鳥取県高校総体駅伝競走

- ・男子 6位 中国大会出場
- ・女子 5位 中国大会出場

《バスケットボール》

○全国高校総体バスケットボール

- ・男子 1回戦 鳥取東 70-102 県立城東(徳島県)

○第59回中国高校バスケットボール選手権大会

- ・男子 3位

○平成27年度鳥取県国体バスケットボール選考会

国体選手選出

- ・男子 神野、西尾、小林、花原、岸本、馬場、岩本
- ・女子 太田、馬場…国体出場

《サッカー》

○第24回全国高等学校女子サッカー選手権大会鳥取県予選会

- ・女子 準優勝 中国地域予選会出場

○第50回鳥取県高校サッカー新人戦

- ・女子 優勝

○第93回全国高校サッカー選手権鳥取県大会

- ・男子 第3位

○高円宮杯 第7回わかとりリーグ2015

- ・男子 2部 第3位 2016年度1部昇格

《ボート》

○第59回中国高等学校ボート選手権大会

- ・男子 舵手付クオドルプル 3位
- ・男子 シングルスカル(近藤) 5位
- ・女子 舵手付クオドルプル 4位

○第70回国民体育大会ボート競技鳥取県予選会

- ・男子舵手付クオドルプル(岸本) 鳥取県選抜選手認定
- ・女子舵手付クオドルプル(田中)
- ・舵手付クオドルプル(横田)

○第70回国民体育大会ボート競技中国ブロック大会

- ・男子舵手付クオドルプル(岸本) 2位 国体出場
- ・女子舵手付クオドルプル 3位

○2015年度高校新人戦兼第27回全国高等学校選抜ボート大会鳥取県予選会

- ・男子舵手付クオドルプル 3位
- ・ダブルスカル(中田、福田) 1位 中国地区予選会出場
- ・シングルスカル(近藤) 2位
- ・女子舵手付クオドルプル 2位
- ・ダブルスカル(岡本、田中) 4位
- ・シングルスカル(寺嶋) 3位
- ・シングルスカル(谷口) 4位

《弓道》

○平成27年度中国高校弓道選手権大会鳥取県予選大会

- ・男子団体(福西、田中、植田、金谷、西尾、木下、上月) 7位 中国大会出場
- ・男子個人(高濱) 6位
- ・男子個人(植田) 11位

○第57回鳥取県高等学校弓道新人大会

- ・男子団体Aチーム 5位 中国大会出場
- ・女子団体Aチーム 6位 中国大会出場

《柔道》

○平成27年度全国高等学校総合体育大会

- ・男子81kg級(網谷) 出場

○平成27年度鳥取県高等学校柔道新人戦

- ・男子団体 3位 中国大会出場
- ・男子66kg級(渡辺) 4位
- ・男子81kg級(西尾) 3位
- ・女子団体 2位
- ・女子52kg級(中江) 3位
- ・女子57kg級(高橋) 2位

《水泳》

○中国五県対抗水泳競技大会鳥取県予選会兼第1次国体予選

- ・男子200m個×(猪山) 3位 中国大会出場
- ・男子400m個×(猪山) 3位
- ・男子1500m自(村上) 2位
- ・男子100m背(日笠) 3位
- ・男子200m背(日笠) 3位
- ・女子100mバタ(吉村) 2位
- ・女子200mバタ(吉村) 3位
- ・女子100m自(吉田) 3位
- ・女子200m自(吉田) 2位

○第65回鳥取県高等学校新人水泳競技大会

- ・男子200m個×(猪山) 1位 中国大会出場
- ・男子400m個×(猪山) 1位
- ・男子400m自(村上) 3位
- ・男子1500m自(村上) 2位
- ・男子100mバタ(木原) 3位
- ・男子200mバタ(木原) 1位
- ・男子50m自(青木) 1位
- ・男子200m自(青木) 2位
- ・男子100m平(小林) 5位
- ・男子200m平(小林) 4位
- ・男子100mバタ(山口) 2位
- ・男子200m個×(西尾) 3位
- ・男子400m個×(西川) 4位
- ・男子100m平(西川) 3位
- ・男子200m個×(山本) 6位
- ・男子100m背(日笠) 3位
- ・男子50m自(日笠) 3位
- ・男子50m自(田中) 2位
- ・男子100m自(田中) 5位
- ・男子100m平(柳澤) 6位
- ・男子200m平(柳澤) 3位
- ・男子100m背(垣田) 6位
- ・男子400m個×(垣田) 3位
- ・女子100mバタ(吉村) 1位
- ・女子400m個×(吉村) 1位
- ・女子400m個×(土肥) 6位
- ・女子50m自(吉田) 3位
- ・女子100m自(吉田) 3位
- ・女子100m平(安本) 3位
- ・女子200m平(安本) 3位
- ・女子200m個×(瀧山) 6位

○第3回中国高等学校新人水泳競技選手権大会

- ・女子400m個×(吉村) 5位

《美術》

○第18回鳥取県高等学校デッサンコンクール

- ・西川愛美、阪田真里奈 佳作賞 4~6位相当

《将棋》

○近畿高等学校総合文化祭鳥取大会将棋部門

- ・男子個人戦Bクラス出場(谷川)

《書道》

○第8回全国高等学校書道パフォーマンス甲子園

- ・近畿高等学校総合文化祭鳥取大会書道部門 出場(中村)



「絆」とは？

一七 福島 脩平

「絆」とは何なのだろうか。皆さんはどのように考えるだろうか。ここでは僕の考える絆について書こうと思う。

「絆」は一人では築くことはできないのではないだろうか。人によって「絆」の価値観や考え方は違うだろうが僕は家族や先輩、先生、そして仲間といった人間関係における「絆」を感じることが多い。

誰しも悩みを持っているたり、辛い苦しいと感じる時があると思う。一人ではどうしようもないくらいつらい経験をしたことがある人もいるのではないだろうか。僕もそのうちの一人だ。でも、そんな時に心の支えになってくれたのは家族や先輩、先生、そして仲間ではないだろうか。（少なくとも）僕がつかつた時に心の支えになってくれたのはそういう人たちだった。真剣に相談に乗ってくれた親や先生、ありのままの僕を認め、いつも笑顔でかわってくれた先輩や仲間を持ち、幸せだなあと感じた時に「絆」が深まっていくのがわかった。部活動で共に苦しんだ仲間と成長できた時、思いきり遊んで互いをもっと知り、良い思い出が作れた時、互いに認め合い、助け合い、支えあえた時、そういつたとき「絆」が深まっていくのがわかる。とても幸せなんだと改めて再確認することができると思う。

僕が考える「絆」とは「人生の一つ一つの経験を通して、自分ではない誰か、何かとの間に積まれ、深まることでどんどん大切なものとなる

いく、何にも変えられない一つの財産」だと思う。
そして「絆」をつくり、深めていく「人」とのたくさんの出会いがこの東高であったことにとても感謝し、感謝しています。

リズム♪

一年 P 前田 知彦

娘は東高に入学して吹奏楽部に入りました。中学校ではバドミントン部だったので素人ですが、先生や先輩方のご指導のおかげで毎日部活を楽しんでいます。ありがとうございまして。学校から帰ると、まず一眼りしてから活動を始める娘です。文字にすると短文ですが、実際は色々やりとりがあります。時間だけと起きるのか？朝まで寝るのか？ちゃんとご飯を食べないけれど、お風呂も時間も長すぎだろ、などなど。先日母親に「10分経たないで起きて、でも起きなかっただけで無理に起こさなくても良いけれど」とトンチンカンな会話をしていました。今年もこのつが登場して、仮眠も加速されています。これ！といった勉強方法や生活のリズムがあれば、みんなが同じようにできて、いろんなこともほかのようにかもしませんが、それじゃ面白くないし、機械的でつまらない。あーでもないこーでもない、じゃあどうだい、なんて言いながら、高校生活を楽しんでくれたらと思っています。

今の自分

二六 前場 裕介

東高生活が始まってから半分が過ぎました。ということは残り半分しか東高生活が残っていないことになりました。僕は入試の時に「文武両道をしていき」と言いました。しかし、ある時顧問の先生に言われた「お前は甲子園に行くための生活ができていないのか？」ということばにはびっくりしました。勉強に置き換えると「大学に受かるための生活」ができ

ているのかと今までを振り返ってみると、授業中に寝ていることも多いし、部活から帰ればすぐに寝ていることも多いし、課題はぎりぎりに提出することも多く、全くそのような生活はできていません。しかし、そんなことを言っているひまなどなく、甲子園に出場することも、大学入試に向けてもタイムリミットが近づいてきています。

僕の尊敬している先輩に言われた言葉で、「なりたいた姿を想像してそのために素直な心を持ってがんばれ」と言われました。この言葉を常日頃から意識するために、自分のグロブにも刺繍しているくらいです。今自分がある状況にこの言葉はとても大事になると思います。将来こんな楽しくて充実した東高生活を送れてよかったと思えるように、今何事にもがんばっていきたいと思います。でも高校生を楽しむことも忘れないようにがんばります。

純粋な、素朴な気持ちで向き合う人権問題 フィールドワークに参加して

二年 P 安岡 裕明

今回、部落解放研究会の生徒さんのフィールドワークに同行するという形で、京都の「柳原銀行記念資料館」を訪ねた。何も予備知識を持ち得ていないのでは、とWebで調べ、「同和地区の方々」が設置した唯一の「銀行」であることを知った。

京都駅にほど近い地にあるその建物は、鳥取市内に現存する「旧鳥取高等農業学校校舎」のような薄緑色の六角形を模した外観。館内には六角形の柱にシャンデリアと、明治時代の西洋建築様式をそのままに伝える建物。

職員の方に銀行設立当時の様子を伺い、館内の展示物に目をやった。「水平社創立大会参加へ」というビラ、「水平社創立宣言」等々、すぐく重みのある物を見たようではとさせられた。当時、旧市内に含ま

れなかったこの地区には、学校も十分な水道設備もない。それを地区の方々が、各戸の少ない収入の中からお金を出し合い、共同の水道設備を整えたり、学校を建設し、さらに先人も雇う。そして、さらに効率のよい収入の確保のためのこの「柳原銀行」の設立。今私たちが「税金」として支払って維持している公共施設の源のようシステム、生活を支える銀行業務を、すでに自らの力で……というのは大きな驚きだった。お互いが「助け合う」「支え合う」という姿の実際を見たような気がした。

参加した生徒さんの率先して質問する姿に、私たち大人ももつと純粋な、素朴な気持ちで関心を持たないと……とも思わされた。様々な人権問題が存在する昨今、自分の身に直接関わることならともかく、そうでなければ、つい遠回しにしてしまいがち。「差別をなくそう」と言うという身構えてしまいがちになるが、「まだ構えて自分の知らない、気づいていない世界を知ることで、今の自分や周りを見つめ直すきっかけ作り」と考えれば、私たちにとても得るものが多いように思う。

三年間を振り返って

三二 浅田 華純

私が東高に入学してから、三年近く経ちました。月日が流れるのは本当に早く、入学したのがついこの間のように感じられます。それだけ私の三年間が充実していたのだと思います。

一年生の春、周りは知らない顔ばかりでとても緊張し、慣れない生活に不安な事だらけでした。しかし、そんな不安は最初だけで、部活動や学校行事などを通してクラスの友達や部活の仲間、先生と親しくなり、毎日学校に行くのが楽しくて仕方がありませんでした。

また、当然楽しい事ばかりではなく、苦難も沢山経験しました。勉強と部活の両立が上手くいかなかったり、部活で思うように調子が上がら

なかったり、けれども、そのような時に踏ん張る事が出来たのは、友達や部活の仲間のおかげです。
今では、入試が目前に迫り、思うように点数が伸びず、苦しくて挫けそうになる時もありますが、共に頑張っている周りの友達に支えられていきます。つくづく友達のありがたみを感じます。そして、そんな仲間と必ず必ず乗り越えられると思います。仲間が居てくれる事を誇らしく思い、また大切にしながら、今後も夢に向かって努力をしていきたいです。
鳥取東高で出会い、自分を支えてくださった全てのの人に本当に感謝します。

子どもを支える親に

三年 P 岡崎 浩一

この三年間、我が娘は、学業に、部活動にと本当に一生懸命取り組んでいたように親としても思っている。この間に本人と関わった先生方や先輩、同級生や後輩など多くの人々によって、あらゆる面で成長させてもらった。ただ、親として本当に我が子を成長させる接し方ができたかという点で振り返ると疑問符ばかりだ。

日々、様々な経験をjする中で本人なりに導いた考えを思いとして発しているのに対し、子どもの思いを感じ取るとともに親の思いを本当に真剣に伝えることができていただろうか。親の理想や見解などにより、真剣に子どもの言葉に耳を傾けることができなかったことも多かったのではないだろうか。また、本人と関わった多くの人々の教えに對して、その思いを推し量り、本人の思いを大切にしつつ、よりよい方向へと導く一言が言えただろうか。

一人前の大人へなろうとしている高校三年生というこの時期になって、改めて子どもを支え、後押しするために親としてどうあるべきかを考えさせられる。子どもの思いをしっかりと受け止め、思いを伝え合って、笑って卒業の時を迎えたい。